共創　Vol. 1 pp. 104～105, March, 2023

実践報告

附属高校の定期健康診断における養護教諭志望学生による補助活動の有用性についての検討
－学生の学びと附属高校における利点の視点から－

浅田 知恵*　圓岡 和子**

*養護教育講座
**附属高等学校

Ⅰ　はじめに

これまで、養護教諭を志望する学生が、大学での健康診断に関わる学びを生かし、附属高校での定期健康診断の場で検診補助の活動に取り組んできた。附属高校においては、学生の補助によって、健康診断の運営に携わる教職員の負担が軽減されていた。しかしながら、学生がこの経験を通して得た学びや、附属高校における利点等について、大学と附属高校が共同して整理することはなかった。

そこで本研究では、附属高校での健康診断の補助活動の経験を通して学生が学んだ内容と、附属高校における利点の視点から有用性を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ　方法

対象は、本年度附属高校における定期健康診断の補助活動に参加した学生34名である。附属高校での健康診断補助活動の直後に「健康診断を振り返り、気付いたことや反省点」を口頭で話し合い、用紙にまとめた。また、活動を全員が終えた段階で、「健康診断補助の実習を通して学んだこと、気付いたこと」などについて自由記述による調査を行った。自由記述の分析は、記述された内容をコード化し、サブカテゴリー、カテゴリーとして分類した。

なお、質問紙調査は記名式としたが、調査時に、「実習での学びの実態を知る資料とするものであり、教育や研究以外の目的で使用しないこと、個人が特定されるような記載はしないこと、成績とは無関係であること」を伝え、回答の提出をもって同意を得たものとした。なお、回収率は100％であった。

Ⅲ　結果及び考察

1　学生の学んだ内容

定期健康診断の補助活動を通して学生が学

表　学生の学んだ内容

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学びの再確認	健康診断の実施方法	「視力検査の受け方で、両目で見たり、視標を覚えてしまったりということもあったので、事前指導の内容を考えるといいと感じた」「細かな指示をしなければ正確な測定ができないと分かった」
	計画に基づく説明	「事前に検診方法や流れを書いておくことで子どもたちが理解しやすくなるので大切だと学んだ」
	プライバシーへの配慮	「検診の結果など個人情報が他の生徒から分からないようにする」「男女別で検診を行うために配慮が必要」
	感染症対策	「検温するときに混雑してしまった。感染症予防と健康診断を両立させるための工夫が必要だと学んだ」
実体験による気付き	効率的な実施	「保健室の広さが決まっているので、よりよい動線を考えること」「健康診断の予定がグループごとに計画されていてスムーズだった」
	養護教諭による配慮	「事前の計画が円滑な実施のためにとても大切であることを学んだ」「学校医さんが疲労を感じないようにしたいという養護教諭の言葉が印象に残った」
	実体験による発見	「視力が急激に下がっている子が何人もあり驚いた」「歯式の記入で焦ることもあったが、落ち着いて行い、分からないときはしっかりと聞きなおすことが大切だと分かった」「反省は次年度に生かせることが多いと感じた」
実践への活用	事前・事後の保健指導	「検診の直後に検診結果を直接手渡しで指導しながら渡すのは、子どもの生活状況を把握できるとともに、子どもが自分事として結果を受け止めることができる」
	教職員との連携	「スムーズに測定を行うためには他の教員の協力が必要不可欠であると感じた」「養護教諭が１人でやろうとするのではなく、いろいろな先生の力が必要と感じた」

んだ内容では、【学びの再確認】【実体験による気付き】【実践への活用】のカテゴリーが得られた（表）。【学びの再確認】では＜健康診断の実施方法＞＜計画に基づく説明＞＜プライバシーへの配慮＞＜感染症対策＞のように、生徒の実態や場に応じた健康診断を行うことの必要性を確認した。また、【実体験による気付き】では＜効率的な実施＞＜養護教諭による配慮＞＜実体験による発見＞で、体験によって得られた驚きや生徒の実態から自身の視野を広げることができたと思われる。【実践への活用】では＜事前・事後の保健指導＞＜教職員との連携＞から、望ましい健康診断の在り方を模索するとともに、教職員との連携についての理解を深めることができた。学生が自分自身の学びを振り返り、知識と実践がつながる機会として有用であったと考える。

2　附属高校における成果と課題

本稿では、歯科検診を例に挙げ、学生の補助活動の実際を図に示した。歯科検診の際は、６名の学生で「室内外での誘導（検温）」「健康診断票（歯・口腔）への記録」「高校生へのミニ保健指導」等を担当した。すべての担当を体験できるように検診人数によって順次交代した。学生による「ミニ保健指導（集団）」によって、生徒がただ順番を待つだけでなく、歯科に関する知識を得る機会を持てた。また、検診直後に「ミニ保健指導（個別）」を行いながら、個々に検診結果を手渡しすることができた。このことは、生徒にとっても、ただ結果の用紙をもらうより有益な事後措置になったと思われる。このように学生が歯科検診の補助として様々な役割を担ったことにより、養護教諭にゆとりが生まれ、さらに、学生の視点から健康診断の在り方を捉えることにより、実施上の課題を改善するなど、よりよい健康診断の在り方を模索することができた。

Ⅳ　まとめ

附属高校における定期健康診断の補助活動を通して、学生は知識と実践がつながることで学びを深める機会となり、附属高校においても検診を円滑に進めることに有用であることが明らかとなった。今後も、より意義のある活動とするよう取り組んでいきたい。
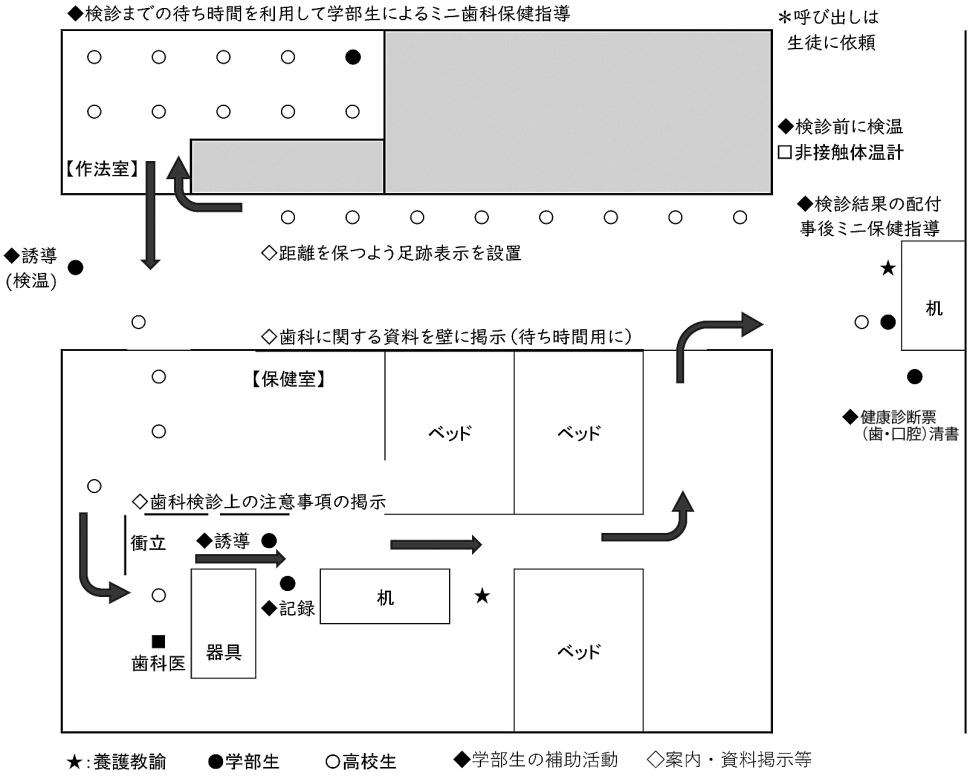
図　定期健康診断における学生の補助活動の実際